（株）未来の図書館 研究所

当研究所員が携わった仕事

2016年4月～2024年3月

1　コンサルティングやアドバイザリー

図書館司書、自治体職員、大学研究者などさまざまな立場で図書館に関わった経験を持つ研究員が、培ってきた観点・知識・技術、そして日々の「未来の図書館」研究の成果を活かして図書館づくりに寄与すべく、コンサルティング等を積極的に行っています。

■ 江戸川区｜「「（仮称）江戸川区立図書館基本計画」策定支援業務委託」（2023年-2024年）

現状調査や事例調査、住民ニーズの把握のための質問紙調査（日本語および英語のウェブフォームも作成）を実施しながら、学識経験者や区民、江戸川区に関わる団体代表者などによる検討委員会（全5回）の議題に沿って、会議資料や議事録の作成支援を行った。そのうえで、子ども読書活動推進計画と読書バリアフリー計画を含む『**江戸川区立図書館基本計画**』策定を支援した。

■ 世田谷区｜「（仮称）第3次世田谷区立図書館ビジョン策定支援等業務委託」（2023年-2024年）

第2次ビジョンの実績把握や事例調査等を実施しながら、学識経験者や世田谷区に関わる団体代表者などによる検討委員会（全4回）の議題に沿って、会議資料や議事録の作成支援を行った。そのうえで、子ども読書活動推進計画と読書バリアフリー計画を含む『**第3次世田谷区立図書館ビジョン**』策定を支援した。

■ 国立国会図書館｜「資料デジタル化及びデジタルデータ長期保存に係る国内実態調査作業」（2021年-2022年）

国内の博物館・図書館・文書館等が所蔵・保有するデジタル資料（公共データや研究データを含む）の長期的な保存・利用保証に関するアンケート調査（質問紙調査）及びインタビュー調査を実施し、調査結果をまとめた（調査に基づく報告書：『**デジタル資料の長期保存に関する国内機関実態調査報告書**』（国立国会図書館 電子情報部電子情報企画課次世代システム開発研究室））。

■ 東京都｜「令和２年度都立図書館の在り方に係る調査検討等業務委託」　（2020年-2021年）
「令和元年度都立中央図書館の在り方に係る調査検討等業務委託」（2019年-2020年）

都立図書館の現状調査や、ICT活用や施設複合化等に関わる先進的取組の動向を踏まえて、国外を含む他館の事例調査（訪問や照会など）を実施した。また調査結果に基づき、都立図書館の役割や運営・サービス、蔵書構築、施設の在り方について検討した。これらの調査検討をしつつ、有識者による検討委員会（全5回）の議題に沿って、会議資料や議事録の作成支援を行った。そして、以上の検討に基づく報告書『**都立図書館在り方検討委員会最終報告：AI時代の都立図書館像**』策定を支援した。

■ 中野区｜「新図書館及び地域開放型学校図書館等運営計画検討業務委託」（2018年）

中野坂上の新図書館（2022年2月開館の「中野東図書館」）の運営（ビジネス支援・子育て支援サービスなどを含むサービスメニューや運用面を充分に考慮した施設の在り方など）、地域開放型学校図書館（2021年4月20日より順次開館）の運営、学校図書館のこれからの運営、並びに新しい図書館情報システム要件の策定に向けた計画検討。現状調査、事例調査、住民意向調査（グループインタビューやワークショップ、質問紙調査）、そして学識経験者による検討委員会運営支援（全4回）などを行った。そして、以上の調査検討に基づく計画案をまとめた『**新図書館及び地域開放型学校図書館等運営計画検討業務委託報告書**』を作成した。

■ 松戸市｜松戸市立図書館のアドバイザリー（2016年-2017年）

2021年12月にオープンした「ひがまつテラス」（東松戸複合施設）に開設された新図書館のコンセプトづくりや必要な調査の設計に関するアドバイザリーを実施した。

■ 他に携わったコンサルティングなど

上記の他にも、自治体や、図書館の運営や建築等に関わる企業へのコンサルティング等の課題解決支援に随時対応している。
新図書館設計に関わるコンセプトづくり・機能設計支援、高校生・大学生の図書館に関する意向を把握するためのワークショップ運営、電子図書館の導入支援、蔵書評価、検索サービスやそのWeb APIを活用したアプリケーション導入支援などさまざまにある。

※以上の業務は、自治体や企業等より、当研究所への委託や弊所研究員への委嘱を受け、実施したものである。

2　講演や研修

幣所では、各研究員が国内外の図書館の動向調査や図書館でのデジタル技術活用など、未来の図書館に関わるテーマを決め調査・研究開発に取り組んでいます。これらの成果について、図書館運営に携わる皆さまにお伝えすべく、研修などを行っています。

主催	講演や研修など
外部機関	**○大阪府教育委員会主催「令和5年度大阪府図書館司書セミナー」（2023年）** **○令和４年度世田谷区立図書館マネジメント能力向上研修（全2回）（2023年）** **○徳島県図書館職員研修会「これからの図書館：社会の変容を見据えて」（2022年）** **○石川県公共図書館協議会主催講演会「図書館の効果をどうとらえるか」（2020年）** **○静岡県図書館協会・静岡県立中央図書館主催　平成31年度公立図書館等職員運営研修「館長研修会」** **「これからの公共図書館の再検討：論点整理と欧州での展開事例」（2019年）** **○北海道胆振地区図書館協議会研修会「ヨーロッパ公共図書館からの報告－公共図書館の再定義が進むなかで－」（2018年）** **○INFOSTAセミナー「Webを活用した図書館サービス－Web API活用術－」（2018年）**
当研究所	**○シンポジウム** ・第8回「図書館と知識社会」（2023年）◀対面・オンラインのハイブリッド開催 ・第7回「図書館とコミュニティアセット」（2022年）◀対面・オンラインのハイブリッド開催 ・第6回「図書館とポスト真実」（2021年）◀オンラインで実施 ・第5回「図書館とレジリエンス」（2020年）◀オンラインで実施 ・第4回「図書館とランドスケープ」（2019年） ・第3回「図書館とサステナビリティ」（2018年） ・第2回「図書館とソーシャルイノベーション」（2017年） ・第1回「図書館のゆくえ」（2016年）

主催	講演や研修など
当研究所	**○ワークショップ「図書館員の未来準備」** 2017年から毎年開催（これまで7回開催し、第4～6回はオンライン開催、第7回は対面・オンラインのハイブリッド開催）。「図書館の役割」と「図書館情報システム」を軸にカリキュラムを構成。 **○オープンレクチャー（公開講演会）** ・「時代に対応する図書館とは何か－アメリカの実践から考える」（2023年）◀オンラインで実施 ・「電子リソースの活用とリモートサービス」（2022年、EBSCO Japan社との共催）◀オンラインで実施 ・「著作権法改正－デジタル社会の図書館を考える」（2022年）◀オンラインで実施 ・「クラウドソーシングが不可能を可能にする～ライドシェアから図書館まで～」（2022年）◀オンラインで実施 ・「地域資料・古典籍のアーカイブ構築と活用」（2019年） ・「オーストラリアにおける子どもとヤングアダルトのための読む文化の創造と文学作品の紹介」（2018年） ・「冷戦から抜け出して：ルーマニア公共図書館のセンサーシップからグローバル化への歩み」（2017年） ・「変わりゆく時代の図書館、図書館情報学教育、図書館情報専門職」（2017年） **○ウェビナー（オンラインセミナー）** ・「図書館の未来を拓くスキル～ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくり」全3回（2020年） ▲ワークショップ「図書館員の未来準備」で展開している内容をもとに、2023年10月発行『図書館員の未来カリキュラム』（青弓社）として書籍化を行いました。

※当研究所の各イベントでの登壇者等の詳細は、Webサイトなどに掲載している内容をご覧いただきたい。

3　執筆（インタビュー対応等の記事や収録含む）

弊所の調査・研究開発の成果を、図書館関係者から一般の方までひろく知っていただくため、論文執筆はもちろん、インタビューや番組出演といったメディアからの依頼にも対応しています。

主催・発行	執筆した論文やインタビュー記事、番組出演など
外部機関	**○青弓社『図書館員の未来カリキュラム』（2023年）** **○学士会『學士會会報』第958号「変わりゆく公共図書館」（2023年）** **○都政新報社『都政新報』2022年9月6日号「アクセスしやすい都の公共図書館」（2022年）** **○青弓社『公共図書館を育てる』（ISBN：978-4-78720-078-5）（2021年）** **○大阪公共図書館協会『大阪公共図書館大会記録集　第68回（2020）』「ポスト真実：コロナパンデミックと図書館」（2021年）** **○J-Wave「TOPPAN FUTURISM」出演（2019年）** **○人文会『人文会ニュース』124号「わが国の公共図書館をどう育てるか：規模を考える」（2016年）** **○文化通信社『文化通信BB』2016年6月27日号（2016年）**
当研究所	**○『調査・研究レポート』** **・2022（Vol.6）『図書館とコミュニティアセット』**（ISBN：978-4-88367-381-0） **・2021（Vol.5）『図書館とポスト真実』**（ISBN：978-4-88367-366-7）※Vol.5から新たに書籍としてシリーズ化、樹村房から発売 ※その他のバックナンバー各巻に掲載している主なレポートは以下のとおり（掲載順、シンポジウム記録等はここでは省略している） **・2020（Vol.4）**「『ツナガル。』から生まれる図書館の可能性」 **・2019（Vol.3）**「日本語の歴史的典籍のアーカイブ構築と活用」「デジタル世界にいまなにが起きているのか」 **・2018（Vol.2）**「つながりっぱなしの日常に、『図書館』をいかに埋め込むか：ソーシャル・デジタルライブラリーの設計技法の確立に向けて」「「Webを活用した図書館サービス」を考える」 **・2017（Vol.1）**「アクセス解析に基づく公共図書館活動の把握：Google アナリティクスを活用した事例」「公共図書館の利用圏に関する研究の発展」「図書館の未来を議論する：ALA 図書館の未来に関するサミットと図書館の未来シンポジウム」

発行	執筆した論文など
当研究所	**○『Library Compass』（当研究所Webサイトで公開）** 図書館に関わるトレンドをおさえ、注目のニュースをピックアップし、その情報を整理して発信することで、これからの図書館を考える上でのコンパス（羅針盤）を目指す取組み ・第10回「データと図書館経営」 ・第9回「公共図書館のコミュニティづくり」 ・第8回「公共図書館での資料への自由なアクセス」 ・第7回「電子リソースを利用者・図書館が選択できる環境」 ・第6回「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）および解説」 ・第5回「図書館探訪：「学校7」という名の公共図書館」 ・第4回「図書館の連携」 ・第3回「「情報の砂漠」と図書館の役割」 ・第2回「図書館における「公平性」「多様性」「包摂」」 ・第1回「改正著作権法」 **○『動向レポート』（当研究所Webサイトで公開）** 公共図書館に関わる動向について、図書館員、研究者、自治体の図書館担当者などの間で共有することに意味のある情報・知見をまとめ、『動向レポート』として公表 ・増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館：再開に向けた取組」 ・増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館：図書館の取組」 ・Vol.6「Dokk1 からOodiへ：公共図書館の新しい表情」 ・Vol.5「『ホライズン・レポート2017図書館版』について」 ・Vol.4「マイクロ・ライブラリーをマッピングする」 ・Vol.3「公共図書館の動向を新聞記事見出しに探る（2）」 ・Vol.2「未来の図書館のエコシステム」 ・Vol.1「公共図書館の動向を新聞記事見出しに探る（1）」

※執筆者等の詳細は、Webサイトなどに掲載している内容をご覧いただきたい。

4　その他

1～3以外にも、図書館に関わるさまざまな活動を実施しています。例えば、下記のようなものがあります。

＜インタビュー対応＞

○豊田市立益富中学校の生徒からのインタビュー、図書館見学の案内等（2019年）

未来の図書館のあり方をテーマに調査する中学生のグループによる当研究所訪問があった。当研究所の活動内容や調査した図書館動向などを紹介し、AIなどが進展しつつある中での、公共図書館や学校図書館のあり方についてのインタビューを受け、図書館の未来について生徒とディスカッションした。また、一緒に図書館の見学も行った。

私たちが2016年4月の当研究所設立後に携わった主な仕事は以上です。
これからも所員一同、図書館に関わるさまざまな活動を実施していきます。

ワークショップ「図書館員の未来準備」の様子

シンポジウム開催の様子